

世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは御言葉を守りました。
(ヨハネによる福音書 17 章 6 節)

卒業を迎える季節となり、高校3年生はまもなく学舎から新しく旅立って行かれます。希望に胸を膨らませ意気揚々と出掛ける人がいれば、不安の中に逡巡を巡らす人もおられるでしょう。ここで一時立ち止まり、歩んだ路跡を振り返ってみましょう。

清教学園の学校生活の中で、最も大切なことは祈りがあるということだと思います。毎朝、礼拝をもって一日が始まることは、学園生活に流れる命です。学ぶ者も教える者も、神様の前に、真理の前に等しく謙虚になり歩み始める、そういう生活をみなさんは積み重ねて来られ、神様に守られ豊かな成長へと導いていただきました。

ヨハネによる福音書17章全体は、イエス・キリストの祈りとなっています。これから弟子たちに裏切られ逮捕され十字架にかけられる直前に、この最後の長い祈りをイエスは祈られました。人は、愛する者を後に残して世を去らねばならないとしたら、いろいろと心配事が尽きないだろうと想像します。イエスの愛弟子たちはと言うと、この期に及んでもまだ「自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか」(ルカ 22 章 24 節)と議論しているような有様でした。これまで3年間、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と繰り返し教えて来たにもかかわらずです。「わたしがいなくなって、果たして弟子たちは神様の愛を伝える活動をしっかりやれるだろうか」とイエスが心配したとしても何の不思議もありません。

ところが、冒頭の聖句のように、イエスの祈りの言葉には心配でしかたがないという調子は微塵もありません。むしろ、「やりきった」感に満ちています。英文法風に云えば、現在完了形で書かれているのです。もうすでに弟子たちが完成しているかのようです。イエスの弟子たちは、この後、大きな挫折を経験して潰れそうになります。失敗を繰り返すこともあったことでしょう。しかし、挫折や失敗を経て、弟子たちは使徒となり、キリスト教会の最初の世代のリーダーとして立派に成長を遂げます。確かにイエスは、彼らが未熟であったときに、将来の成長の姿をすでに現実であるものとしてイメージし、祈ってられたのです。

『信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです』(ヘブライ人への手紙 11 章 1 節)と聖書にあります。ここから、信仰とは、まだ実現していない将来をあたかももうすでに現実となっているものと考えて行動することだと教えられます。学園は、イエスの祈りのように、賜物を存分に生かし世に貢献するみなさんの将来の姿を、すでに起きた現実のようにイメージして、教育に励んできました。イエスの祈りから学ぶこの方法を、みなさんにおかれても、次の舞台で活用し、夢を叶える人生を歩んでいただきたいと思います。漠然と夢はあるけれど具体的に何もしないで留まっているのではなく、夢がすでに実現している姿を強くイメージして、その日その日にできることに精一杯打ち込むこと、これがイエスの教える成功の秘訣なのだと思います。「イエスの祈りメソッド」を実践してみたいはいかがでしょうか。

みなさんの将来に、神様の限りなく豊かな祝福があることをお祈りいたします。

